



	<b>徳育科のバイオニア コミュニティ・スクール</b> <h1>八小だより</h1>	教育目標 ◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげる子
	武蔵村山市立第八小学校 平成29年2月1日 <a href="http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced8s/index.html">http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced8s/index.html</a>	行動目標 わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人

## 「ものの 名まえ」を学習すると、算数が面白くなる

副校長 柴田 忠幸

1年生の国語の教科書に「ものの 名まえ」という説明文が載っています。左は抜粋した一部です。

一方、算数の学習する領域に「図形」があります。その中の3つの単元を取り上げ、学習のいちばん始めに出てくる問いを抜粋し、下の表にまとめてみました。

先日「ものの 名まえ」の授業を参観していたときの事です。授業が進む中で、子供たち一人一人が「まとめてつけた名まえ」(上位語)と「一つ一つの名まえ」(下位語)の関係を自分で作る学習に入り、次々に学習シートに書き始めたのでした。(以下の2例は、実際に子供たちが書いていた内容です。)

「野菜」と「キュウリ、トマト、キャベツ、ほうれん草」


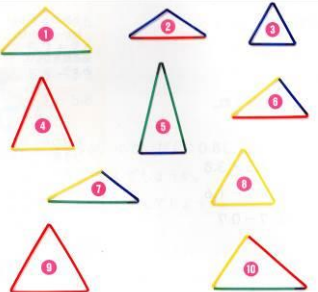
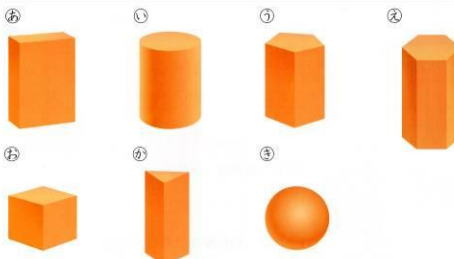
「動物」と「うさぎ、トラ、パンダ、クマ」 等々。

そのとき、「これは算数の仲間分けに繋がる」と思ったのです。

ここからは算数の話です。子供たちは図形の問いに対し、「辺の

数が…」 「角の大きさが…」 「面の形が…」といった図形の特徴に「目の付け所」を見だし、それぞれの形を「目の付け所」に従って分類するという、算数の考え方を身に付けます。子供たちはすでに「ものの 名まえ」の授業で、おぼろげながらあれ、カテゴリーで言葉を括る活動と、上位語・下位語の構造については学習済みです。この既習があるからこそ、この授業の中で「目の付け所」(=カテゴリー)をどこにするかを“算数的に”思案することに集中することができるのです。そこに、算数の面白さがあると思います。(余談ですが、厳密には、「ものの 名まえ」の関係がそのまま当てはまるのは、「立体」を分けた④のグループ「『角柱』と『三角柱』『四角柱』『五角柱』『六角柱』……」の関係となりましょうか。)

「三角形と 四角形」を学習したこの2年生が、将来「三角形」「立体」を学ぶときも、「扱う図形が違うだけで、図形の仲間分けの考え方はこれまでと同じでいいんじゃないかな？」と、学習してきたことに自信をもつことでしょう。

単元名	問い	単元名	問い	単元名	問い
(2年) 三角形と四角形	直線をかこんでできた形を、2つのなかまに分けましょう。	(3年) 三角形	ストローで作った三角形を、仲間分けしましょう。	(5年) 立体	上の④～⑩の立体を次の④、⑤のように2つの仲間に分けましょう。
					

学習したことが次の学習に生かすことができたり、関わりのなさそうな学習と繋がったりすると、学ぶことの価値や面白さを実感すると考えます。本来、学ぶことは面白いのです。子供たちに学ぶ面白さを伴った学力が身に付くよう、各御家庭のお力添えを得ながら、これからも努力してまいります。